

育園給食の脱脂粉乳は、現在或はそれ以上に活用されることを切望する次第である。

(3) 次に保育所の給食によって園児の栄養は強化されているが、他の面からこれを見たい。

オハツのミルクのみ給食される日の子供のお弁当の内容と、お野菜入りのお味噌汁という簡単なお昼の給食とオハツのミルクと両者給食される日の子供のお弁当を比べて見た。(図八)(略)

前者に於てはパンだけを持参する子供は八・四%、それに対して後者に於ては三〇%にも上り、後者に於ては三〇%もの園児がパンと味噌汁だけという誠に貧弱なお昼を食べることになる。これから考えて、保育所の給食は行うならば、味噌汁だけという簡単な栄養的にも中途半端なものでなくて動物性蛋白質も灰分もビタミンも凡てを含む完全なものを給食したいものと考え。中途半端な給食は却て親に生中の安心を覚えて子供の栄養を低下させることになる。

又お茶の内容を見ると完全と思われるもの即、蛋白源、灰分源、ビタミン源を凡て含むものは一八%これに準ずるものは二三%で大部分の園児は不完全なお弁当によって、一日の三分の一の大切な栄養を貧弱に摂っていることを知る。この事から考えて保育所の給食は、是非行いたいし、行うなら完全に行いたいものと考え。

(4) もう一面から考える。体位の優れない特別な地区を例に取って、その体重及び摂取回数、度数分布を比較して見る。両者は似通った分布状態を示す。(例略)

体位の優れている地区では、凡れも平均値の周囲に集っているのに反し、劣る地区では撒分度が高い。つまり栄養的環境が非常にまぢまちであることを知る。この不平均な栄養的環境を少しでも平均にすることは保育所給食によってのみ期待されることである。この

意味からも保育所の給食は是非力を入れて行ってほしいと熱望する次第である。

〔総括〕

以上、与えられた園児はそれに報いて優秀な体位を示している。故に如何なる苦勞に面しても保育所給食はより完全な方向に持つて行くべく努力したいものである。凡ての園で夫々努力しておられるのには敬意を表したが、中でも諏訪第一保育園城南保育園は優れた献立を作製しておられて感服した。

二市一郡の全保育園の保母先生が全面的に御協力下さったことを心から感謝して筆をおく。

保母と結婚

伊那保育園

河原洋子
酒井亨子
中山郷子

幼児の保育にあたって、その中核をなす私達保育者の問題について、いろいろ考えてみなくてはならないと思う。私達はその中で、自分達がたどらなくてはならない問題として結婚という事をクローアップしてみたいと思った。

優秀な先輩又は後輩が、結婚という人生の転換機にあたり、大部分の方達がやめられてしまう現実により、大変いろいろ考えさせら

れ、又残念に思う。

保育園の保母と家庭と両立しないのであろうか、又両立させたいと思わないのであろうか。他の職場と違っていわゆる人間性を要求される保育の仕事では、技術的に勝れている事も大切であるが、人間の成長により、自分自身が母となり、母性的愛情を加えてさらに保母らしく豊になるのではないかと考えられる。保母と結婚をむすびつけての考えや実体を明らかにしたいと思ひ、長野県保育専門学院の生徒であつた河原洋子、酒井亨子と中山郷子の共同研究として調査した。

〔一〕 研究の方法と対象

1 問題を多方面から検討し総合的に考察するために③これから保母という職について結婚の段階が待っている「学生」と④現在保母をしているが真近に結婚をひかえているであろう「未婚の保母」と⑤すでに結婚もし保母という職についている「既婚の保母」の三つに分類し、地域的に偏向しないよう長野県下全般に帰省する学生に調査用紙を依頼するようわたした。

2 質問紙法によるアンケートの方法を用いた。

3 「学生」「未婚の保母」「既婚の保母」各々一〇〇枚ずつ計三〇〇枚。

〔二〕 研究の内容の概略

1 年令について 2 結婚後もつとめるかどうかについて 3 結婚について 4 趣味について

〔三〕 調査の結果と考察

1 年令について 最高五、六才 最低十九才 平均年令

「学生一九・七才」「未婚」二二・三才「既婚三五・〇才

〔考察〕— 全体的に大変若いと思つた。

2 何年つとめたか

〔考察〕— 三年位までがバーセンテージが多くあととはだんだんへり六年からぐつとへつているところをみると、大体三年又は五年つとめて、結婚により退職するのではないかと考えられる。

3 結婚してつとめるか 第二表(略)

〔考察〕— 学生では自分の計画として結婚後も勤めるといふ風潮が強いようであるが、未婚の未定が多いのは、身近かな問題となつて来て、相手の職業保育所の仕事等考えつとつとめるのかつとめないのかわからなくなつてくるのではないと思はれる。

4 何才で結婚するか又はしたか 第三表(略)

〔考察〕— 共稼ぎだと回答した人もそうでないし回答した人も合せた、未婚全体の平均年令は二四才強とでた。既婚者全体の平均年令は二三才でその時結婚したとなる。既婚者はやや早婚になつていと推測出来る。しかし結婚の際保母をしていたという四割の人をみるとその人達の結婚平均年令は二八・三とずつと上まわつてゐる。

学生の共稼ぎしようとする人の平均年令は二六と出て全体的にグラフ(略)が示すように、共稼ぎでは結婚の年が上まわつてゐる、晩婚型だといふ事がわかつた。ここで見落す事の出来ない点は保母をしていて結婚した人の平均年令が高いといふ事である。未婚の保母の共稼ぎ論者も実際には結果として既婚の人の道を辿るのかもしれないと思つた。

5 結婚に際しての保母の悩み(学生、未婚)

多い順にあげると ④異性との交際に関する問題— 男性に接する機会が少い事、従つて男性との交際が少く異性の見方に視野がせまくなる、配偶者を自由撰択出来ない。③職業との両立についての問題— 結婚後も続けたいが果して両立するか、保母としての職業を理

解している人が少い、結婚後しばらくして再び就職したい時就職難を予想する、実徒への愛情と園の子供への愛情との板ばさみ ⑥精神的肉体的についての問題 ⑦経済面に関する問題―給料が安く結婚の用意が出来ない、生活をするのに勢一杯、身分の保証がない ⑧教養に関する問題 ⑨労働時間に関する問題―職場に長時間いる事、心身共に非常に疲れる。自分の時間がつくりだせなくて、勉強も、女性のたしなみとしての勉強も出来ない。時間がなくいろいろな集りがあっても出られないという事。

6 配偶者を如何にしてさがすか (学生、未婚) 第四表(略)

〔考察〕―学生においては恋愛が約半数、見合後恋愛の大体二本立である。未婚の保母も同じ事が云えるが、学生においては恋愛が半数を占めているのに対し四分の一で、そのかわり見合後恋愛がふえてゐる。未婚の保母は恋愛等する機会が少く、結局見合後恋愛の道を撰ぶのではないかと考ふる。職場にいて結婚した保母はどうであつたかを調査すれば、より面白い結果が出たのではないかと思つた。

7 職場と結婚の両立はするか 第五表(略)

①両立に困難だと予想される点

多かつた順に並べて ▲時間的についてむり ▲精神的肉体的にむり ▲家庭への愛情と仕事への愛情の板ばさみ ▲結婚生活になれない間 ▲子供の小さい中はむづかしい ▲主婦としての仕事か思うように出来ない ▲両方が充実した仕事が出来ない ▲家庭不和の原因

②両立出来ると予想する点

▲夫婦が相互に仕事を理解している事により ▲夫、姑、家族の人の理解により ▲子供をみてくれる人がいる場合 ▲子供が出来ない間 ▲保母という職は家庭とつながりをもっているため ▲保母

だけが共稼ぎ出来ないとは限らないから子供が出来てからのの方がよい保母になれる ▲強い信念をもってやっていけば出来ない事は無い ▲経済的面で ▲夫が似た種類の職だったら或程度よい ▲なるべく姑の居る家を望みむりのない様にする ▲心身共に健康である限り

③実際に両立を行っている既婚の保母の夫の意見では―

〔よい方〕―世帯じみないでよい ▲新しいセンスをもって子供におくれない ▲家事におわれるより定職についていた方がはりがあるのではないか ▲経済的に感謝 ▲共稼ぎが普通のように考える
〔いけない方〕―保母の給料は安い ▲家庭をもっているのだから早くつとめがやめられるようにしなければ ▲女性だけの職場からくる弊害を指摘される ▲教員と違って身分の保障がないから可哀想だ ▲保母をしていると自分の子供の指導に神経質すぎてマイナスする ▲ひとの子供をかわいがるのはよいが自分の子供もつと考えてやれ

―夫に対する意見―

●留守の時家庭をよく守ってくれる ●理解がある ●困つた問題を助けてくれ協力的である ●主婦としてのつとめがはたせなく悪い ●理解がない

〔考察〕―これだけの回答で云々するのはむりであるが、大体未婚の人が共稼ぎについて予想している点と、実際にその場に当たっている人の意見の大差はなく同じ方向にいつている夫の意見等両立に困難だという文句がもつと出ると思つたが、やはり経済的に助ける人に文句などそんなにいわないのだからと推測してみた。又よい点も少く、世間の男性は、共稼ぎはやってほしくないのであらうと考へさせられた。現在共稼ぎをやっている保母さん達はどの様な理由

姑がほしいですか

第 8 表

	学 生	未 婚	既 婚
い て ほ し い	54.5%	39.5%	8.6%
い て ほ し く な い	41.8	34.8	—
a ず っ と い て ほ し い	15.9	—	—
b 子 供 が い て ほ し い	20.4	13.9	8.6
c 子 供 が い て ほ し い	9.9	4.5	11.1
d 子 供 が い て ほ し い	15.9	2.2	1.7

他にどんな人がするか

第 6 表

姑	36.1%
実 母	13.8
娘 夫	27.7
小 姑	14.0
嫁	2.8
その他	2.7
その他	5.4

夫はどんな事を手伝ってくれるか

第 11 表

除 世 話	1
子 供 の 下 げ	2
布 団 の 洗 い	3
買 い も の 事	4
炊 た の 事	5
洗 た の 事	6
そ の 他	7

で結婚後もつとめているであろう。

第五表(略)「貴女はどの理由で共稼ぎしていますか」では四分の一の経済的理由のみで務めている保母を残しては皆使命感にもえ情熱をもって保育にあたっている事は尊くよろこばしく思う。然し、残四分の一の保母には危険性を感じた。

8 姑がほしいですか(第八表)

「考察」— いてほしい人とほしくない人と約半々をしめている。世の中でいう姑の嫁いじめとか或は祖母の子供に及ぼす影響その他を考えた時いてほしくないと考え、又逆に家事や子供の世話をしてもらえるが故に保育に欠けた子供を預る保育所の、保母自身の子供が又、保育に欠けてしまうのではないかと考える時、やはり姑がある事により有難く思うのではないかと考えられた。

▲家事の事をする人がいるか— (九表を参照)

▲家事の事をする人がいるか

(第 9 表) はい……………六一%
いいえ……………三〇・五%

▲家事の手伝いを他にどんな人がす

るか(第六表 とこのグラフ参照)(グラフ略)

▲子供は何人いるか(十表参照)(略)

「考察」— 0人が全体の三分の一強である事は、子供が無いうち、又はないからつとめ、子供が出来たら一応休職なり、やめる人が多いのではないかと推察した。

▲夫は家事を手伝うか

毎日— 一三・八% 時々— 四八・〇% 全然手伝わない— 三・四%

▲どんな事を手伝ってくれるか(十一表参照多い順に並べてある)

9 労働時間と睡眠時間 平均時間

労働— 九、〇〇時(既婚) 九、四〇分(未婚) 九、四〇分(全体)

睡眠— 七、一〇分(既婚) 七、二〇分(未婚) 七、一〇分(全体)

(七表参照)(略) 睡眠時間短く労働時間長い

10 配偶者の職業は十二表(略)

「考察」— 保母という職に共通性のみられる職を配偶者に求めている。例えば教育者など、又サラリーマン系統のものが多い。

11 趣味については省略するが、良き保母になると同時に、よき主婦となるための勉強、趣味などしたいといひ、又、行っている。

「まとめ」— これだけの調査で科学的立証を得たとはいえないと思ふし、調査してみても、問題不備や、補足せねばならぬ点が多々あると思うが、一応結果と考察で、この問題をまとめてみた。この様な問題は個々のケースにより奥深いものがあり、第三者が批判するわけにはいかないと思つた。とにかく、あまり恵まれない職場でありながら、希望に満ちた人生観と使命感をもち、結婚後もつとめて家庭と保母を両立させたいという学生、未婚の保母が、この調査で七割近くもあつた事はよろこばしい事である。しかしこう考えると、実際として、新しい保母の就職難が予想されるがそれは、今後保母試験等

やめて、専門教育をうけた者のみをこれにあてるのも解決策の一つと考えられる。もっと多くの保母が、結婚生活と保母と両立させるよう合理的な新しい女性の職場として最上のものでしてゆきたい。

保育者に対する社会的評価 に関する研究

頌 栄 短期 大学

西 本 脩

研究の目的及び問題

この研究は、保育者の職の教育心理学的意味を明らかにするための試みの一つである。現代の社会の各層の人々が、保育者という職（その地位・身分・職務など）に対して、どのような考えを持っているかを実証的に明らかにしようとした。尚ここで云う保育者とは、幼稚園、保育所に於いて幼児を指導し保育する職業として、狭く限定された意味を持つものとする。

研究の方法

一、第一次調査—保育者についての意見の蒐集及び選択

保育者に対する見方・考え方を調査するために、先ず保育者の地位、身分、職務、能力などに関する多数の意見を集めることが必要である。このため、某短大保育科学生及び幼稚園、保育所の教師、保母計六二名に、保育者に対して思い起すあらゆる意見を出来るだけ書いて貰った。その他、新聞・雑誌等からも意見を選び出し、合計約一〇〇種類の意見を集めた。これらを先ず、(1)保育者に好意を

表わしている意見 (2)中立と思われる意見 (3)好意を示していない意見に三大別し、これらを更に、ワングの発表している意見選択の一六の規準に照らして意見の選択を行い(註)、約一〇〇個の意見の中から二二個の意見を選択した。これらの意見を、好意度の高いものから順に示すと、第一表のようになる。(註)ワングの挙げて一六の規準については、波多野完治「現代心理学説研究」上(小学館 昭和一六年)の二二〇—二二四頁に紹介されている。

二、第二次調査—選択された意見の客観的評定

前述の二二個の選択された意見は、私個人の主観によって選択されたものであるから、更に多数の者の意見を聞いて、果してこれらの意見が保育者に対する好意性を示すものであるかどうか、又その程度はどうかを客観的に検討しようとした。このために、二二個の意見を別々のカードに印刷したものを、某短大保育科二年生、幼稚園教諭計四五名に渡して、各意見の持つ好意度を十一段階に評定して貰った。即ち、一々の意見に対して、自分がそれに賛成か否かは問わず、純粹に客観的に判断して、その意見が保育者に好意を持った意見であるか、好意のない意見であるかを判定し、更にその程度を段階付けて貰うことにした。若し最も好意ある意見と思うならば10、最も好意なき意見と思うならば0、好意ありとも無きとも云えぬものならば5とし、更にその間に好意の程度によって、6・7・8・9或は非好意の程度によって4・3・2・1の各段階に評定して貰った。

その結果を、各段階における頻数にまとめ、中間値及び脱逸度を求めたのが第一表である。この中間値が、各意見の好意度を示すものと考えられる。

三、第三次調査—本調査